

小 牧 市 の 概 要

1. 位 置

北緯 35度17分

東経 136度54分

濃尾平野のほぼ中心

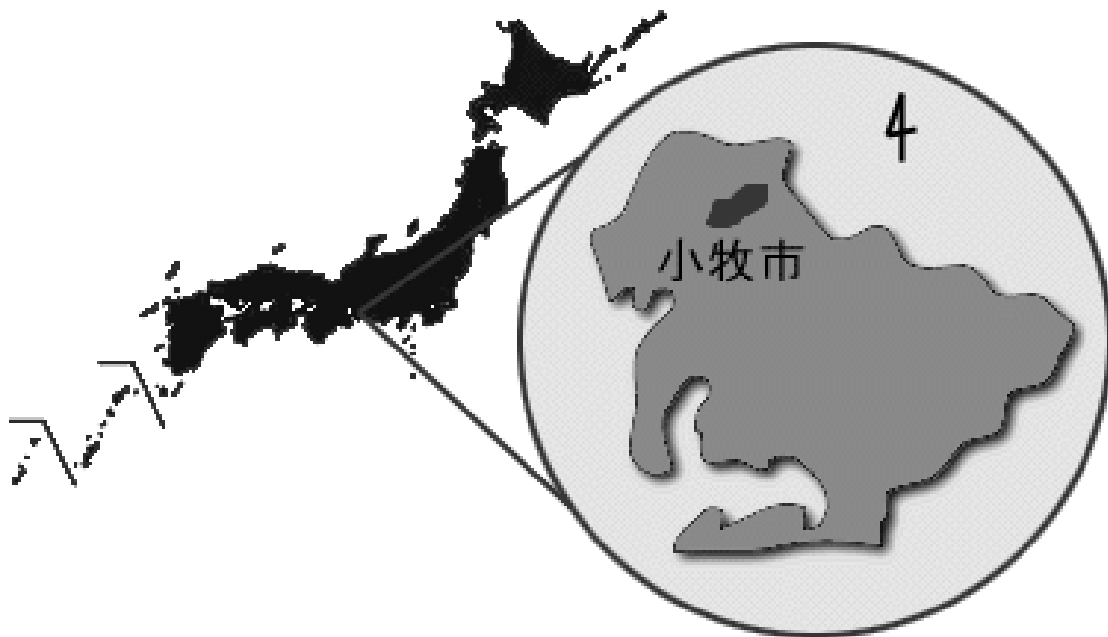
3. 面 積 62.82 km²

2. 広ぼう

東西最長 14.82 km

南北最長 9.22 km

周 囲 57.50 km



小牧市は、昭和30年1月、小牧町・味岡村・篠岡村の1町2村の合併により県下21番目の市として市制を施行しました。昭和38年9月には西春日井郡北里村と合併し、現在の市域となりました。

高度経済成長期には、中部の空の玄関名古屋空港、さらには名神、東名、中央の3大ハイウェイの結節点という立地条件にも恵まれ、多種業が進出し、かつての田園都市から内陸工業都市へと大きく変貌し、中部の中核都市へと発展しました。

さらに、名古屋都市部と小牧インターチェンジを直結する名古屋高速道路11号小牧線が開通したほか、名古屋鉄道 小牧線と名古屋市営地下鉄 平安通駅までの連絡線が開通したことにより陸上交通要衝としての地位をさらに確固たるものとなりました。

そして、第6次小牧市総合計画を策定し、この計画を共通の目標として、市民・企業・行政がそれぞれの役割と責任を果たしながら、小牧らしさがあふれる「人と緑 かがやく創造のまち」を目指し推進中です。

小牧消防の沿革

- 昭和39年 4月 第1分団車庫を改築し、消防本部及び署を発足。職員18名と消防ポンプ自動車1台、指揮車1台で消防業務を開始する。
- 5月 消防ポンプ自動車1台を配備する。
- 8月 水槽付消防ポンプ自動車1台を配備する。
- 10月 救急自動車1台を消防署に配備し、救急業務を開始。超短波無線電話の基地局を消防署に、水槽付消防ポンプ自動車・救急自動車に移動局を装備し、連絡の敏速化を図る。
- 昭和40年 9月 水槽付消防ポンプ自動車1台を配備する。
- 10月 小牧市役所新庁舎の落成式が、市制10周年と共に挙行され同時に消防本部及び消防署を新庁舎内に移転する。
携帯無線機を1基装備し、災害時の連絡を強化する。
- 昭和41年 6月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台寄贈を受け火災保険号と命名する。
- 昭和43年 1月 林野火災に備え、小型動力ポンプを配備する。
- 4月 名神高速道路供用開始にともない、起点となる小牧市に日本道路公団から救急自動車の貸与を受ける。
- 昭和44年 8月 広報車1台を配備する。
- 11月 日本道路公団から超短波無線機1基貸与され救急自動車に装備する。
- 昭和45年 11月 車両火災、危険物火災等に対処するため化学消防車1台を配備する。
- 昭和46年 3月 屈折はしご自動車(15m)1台を購入し、中高層建築物の人命救助及び火災活動の強化を図る。
- 6月 査察車1台を購入し、防火・防災の予防を強化する。
- 9月 高発砲消火装置1台を購入し、火災活動の強化を図る。
- 昭和47年 12月 中央自動車道路供用開始にともない、日本道路公団から救急自動車の寄贈を受ける。
- 昭和48年 2月 消防隊が火災現場へ到着するまでの間、消防協力者による消火器使用に対し、その消火薬剤の補助制度を設ける。
- 昭和49年 7月 自衛隊F86Fジェット戦闘機、西之島に墜落 死者4名
- 12月 水槽付消防ポンプ自動車1台を配備する。
- 昭和50年 8月 結婚式場吉祥殿火災 焼損面積1,240㎡ 被害額9千6百万円
- 10月 愛知県共済農業協同組合連合会から救急自動車の寄贈を受け、消防本部発足時に配備したメトロポリタン型救急自動車を廃車とする。
火災による損害を受けた市民を救済するため、共済制度を設け小牧市市民火災保障条例を制定する。
- 昭和51年 3月 市役所庁舎から独立した新消防庁舎落成する。
- 昭和52年 3月 消防職員・団員の招集及び市民への周知徹底を図るため、市内5ヶ所に無線サ

- イレン制御の受信装置を設置する。
- 昭和53年 6月 空き地に繁茂した雑草や枯れ草により火災が発生するのを防止するため、雑草除去に関する条例を施行する。
- 12月 消火活動の能率向上を図るため水槽車（10t）1台を配備する。
- 昭和53年 2月 小牧ロータリークラブから指揮車の寄贈を受ける。
- 4月 自治体消防30周年記念式典（小牧市市民会館）を開催する。
- 10月 日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車の寄贈を受ける。
- 昭和54年 6月 広報車1台を配備する。
- 8月 10世帯に1本を目標とし市内全域に街頭消火器を初回分として205本設置する。
- 昭和55年 2月 地震対策として、小牧市市民会館駐車場入口に飲料水兼用の耐震性貯水槽（100m³）を設置する。
- 3月 自警団組織の充実を図るため、大山自警団に可搬式動力ポンプを配備する。救急自動車1台を配備する。
- 7月 総合気象観測装置を購入し災害に備え、無線サイレン制御の受信装置を1基購入し野口地区に設置する。
- 昭和56年 2月 街頭消火器511本を市内に設置する。
- 3月 可搬式動力ポンプ1台を購入し、小木自警団に配備する。救助工作車1台を配備し、特殊災害に対する消防力の強化を図る。
- 6月 連絡車1台を配備する。
- 7月 指揮車1台を配備する。
- 11月 街頭消火器451本を市内に設置する。
- 昭和57年 3月 水槽付消防ポンプ自動車・消防ポンプ自動車を配備する。
- 7月 小牧市自主防災会連絡協議会及び小牧市婦人消防クラブ連絡協議会発足する。
- 10月 市東部地区防火防災の要として消防署東支署（仮庁舎）を開署する。可搬式動力ポンプ1台を購入し、藤島自主防災会に配備する。
- 11月 街頭消火器275本を市内に設置する。愛知県共済生活協同組合から広報車の寄贈を受ける。
- 昭和58年 3月 日本損害保険協会から救急自動車の寄贈を受ける。
- 8月 小牧ライオンズクラブから広報車の寄贈を受ける。
- 11月 街頭消火器510本を市内に設置する。
- 昭和59年 3月 小牧市消防本部設立20周年記念式典
- 7月 災害現場へ資器材を搬送するため、器具搬送車1台を配備する。第29回愛知県消防操法大会が当市において消防庁長官、日本消防協会長及び愛知県知事を迎え開催（小牧市第1スポーツ広場）する。
- 8月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け二重堀、市之久田自主防災会・婦人消防クラブに配備する。
- 11月 日本防火協会から広報車の寄贈を受ける。

- 昭和60年 2月 超短波救急無線装置を開局し救急自動車3台・指揮車・救助工作車各1台に装備し、特殊災害の連絡の強化を図る。
- 8月 水利部署迅速化のため、消火栓標示ラインを施工する。
- 昭和61年 6月 街頭消火器210本を設置し、合計3,138本となり目標の10世帯に1本の割合を達成する。
- 12月 東支署仮庁舎を廃止し、池之内地内に鉄筋2階建新庁舎開設する。
- 昭和62年 3月 消防本部及び消防団が防火思想の普及、消防施設の整備、その他の災害の防御に関する対策について、成績が特に優秀にて消防庁長官表彰旗を受賞する。
地震対策として、北里小学校内に飲料水兼用の耐震性貯水槽（100m³）を設置する。
- 8月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け春日寺、池之内の婦人消防クラブに配備する。
- 10月 中高層建築物の災害に対処するため、はしご自動車（35m）1台を本署に配備し、屈折式はしご自動車（15m）1台を東支署に移動配備する。
- 12月 市東部地区の建物火災・林野火災等、水利確保の迅速化を図るため大型水槽車（10t）を東支署に配備する。
- 昭和63年 1月 愛知県共済生活協同組合から救急自動車の寄贈を受ける。
- 8月 火災、救急現場の早期検索誘導等を目的に消防地図検索システムを通信指令室に導入する。
日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け、南外山、久保一色の婦人消防クラブに配備する。
- 平成 元年 5月 通信指令室の緊急情報システム設置工事着工（緊急情報システムⅡ型）する。
- 8月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ3台寄贈を受け、本庄第1、とみづか団地の婦人消防クラブに配備（1台本部保管）する。
- 平成 2年 3月 通信指令室の緊急情報システム運用開始
- 8月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ6台寄贈を受け、常普請、村中、東町、小牧原街道、大草の婦人消防クラブに配備（1台本部保管）する。
- 平成 3年 6月 大善家具倉庫火災 焼損面積3,981m² 被害額6億1千万円
- 10月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け（1台保管用と合わせて3台）岩崎西部、下小針、林の婦人消防クラブに配備する。
はしご自動車（40m）を東支署へ配備する。
- 平成 4年 7月 市役所福祉課の協力業務として緊急通報センターを通信指令室に開設し運用開始する。
- 9月 市南部地区に消防署南出張所を開所し、水槽付消防ポンプ自動車、救急自動車、広報車各1台で運用開始する。
日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け、桜井、河内屋の婦人消防クラブに配備する。
- 12月 消防本部・消防署庁舎の老朽化にともない改修工事を施工する。

- 平成 5年 1月 南出張所の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
- 2月 南出張所の救急自動車を更新する。
- 9月 日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車1台寄贈を受ける。
- 10月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け、下之町、古雅第4の婦人消防クラブに配備する。
- 11月 自治体消防45周年記念式典に参加（東京ドーム）する。
日本消防協会から救急自動車1台寄贈を受ける。
- 12月 総合気象観測装置を本署、東支署、南出張所に整備し、常時通信指令室にて観測結果が大型パネルで表示・記録可能となる。
- 平成 6年 4月 名古屋空港中華航空機墜落炎上事故
乗客256名、乗員15名 計271名 内264名死亡
エアバス A300-600R型
- 8月 指揮車を新規配備する。
- 11月 指揮車の運用開始
日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け、懐、久保の婦人消防クラブに配備する。
- 平成 7年 1月 兵庫県南部地震救助一次隊応援
高規格救急自動車を購入する。
- 2月 高規格救急自動車運用開始
兵庫県南部地震救助二次隊応援
- 3月 兵庫県南部地震救助三次隊応援
- 5月 救急救命士第1号誕生
- 6月 普通救命講習会を一般市民、事業所、団体等を対象に開始する。
- 9月 救急救命士が乗車する高規格救急自動車の運用開始（昼間のみ）する。
- 平成 8年 2月 救急救命士の救急出場24時間体制を開始する。
化学消防車（Ⅲ型）を南出張所に配備する。
- 4月 市北部地区に消防署北出張所を開所し、水槽付消防ポンプ自動車、救急自動車、広報車各1台で運用開始する。
- 5月 聴覚・言語障害者の緊急時に対処するため緊急通報ファクシミリ「FAX小牧119番」の運用開始する。
- 9月 大規模災害に対応するため広域応援体制が強化され、消防機関における通信体制を確保するため全国共通波の運用開始する。
日本消防協会から軽可搬消防ポンプ2台寄贈を受け、南岩崎台、久保一色南の婦人消防クラブに配備する。
- 平成 9年 4月 愛知県が事業主体となり、県内の全市町村・県庁・消防庁とネットワークし、広域応援活動に活用する目的として計測震度計を設置し運用開始する。
- 9月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ1台寄贈を受け、西町の婦人消防クラブに配備する。

- 10月 消防本部のホームページを開設する。
- 平成10年 2月 携帯電話からの119番受信新システム「分散受信方式」運用開始
3月 自治体消防50周年記念式典に参加（日本武道館）する。
4月 愛知県防災航空隊へ職員を1名派遣する。
9月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ1台寄贈を受け、竹林婦人消防クラブに配備する。
- 平成11年 3月 高規格救急自動車を東支署へ配備（運用開始）する。
8月 愛知県・小牧市総合防災訓練を開催（陶スポーツ広場）する。
10月 日本消防協会から軽可搬消防ポンプ1台寄贈を受け、岩崎団地第2婦人消防クラブに配備する。
- 平成12年 2月 愛知県共済生活協同組合から指揮車の寄贈を受ける。
4月 消防庁舎耐震改修工事（4月～12月）
9月 東海豪雨により、死者2名を含む被害が発生
- 平成13年 8月 折畳式アルミ救命ボートを購入する。
9月 高規格救急自動車を北出張所へ配備する。
小型動力ポンプ付水槽車（5t）を北出張所へ配備する。
- 平成14年 11月 第5回全国消防コンクールホームページ部門において消防庁長官表彰を受賞（優秀賞）する。
- 平成15年 3月 高規格救急自動車を南出張所へ配備する。
4月 消防署南出張所、北出張所を南支署、北支署に名称変更する。
6月 災害対策本部を耐震性の高い市役所南庁舎に移設する。
11月 自治体消防55周年記念式典に参加（東京ドーム）する。
- 平成16年 2月 高規格救急自動車を本署へ配備。5台すべてが高規格救急自動車となる。
3月 地震対策として、味岡小学校内に飲料水兼用の耐震性貯水槽（100m³）を設置する。
消防本部に地震計を設置し運用開始する。
風水害対策として、洪水ハザードマップを作成し、市内全世帯に配布する。
2005年日本国際博覧会（愛知万博）開催に伴い職員2名を派遣する。
7月 福井豪雨に緊急消防援助隊として出動する。
11月 新潟県中越地震に伴い緊急援助物資を新潟県小千谷市に搬送する。
通信指令室の高機能消防指令センター総合整備工事完了
12月 災害現場での消防職員の安全管理のため、コート型防火衣をセパレート型防火衣へ更新する。
- 平成17年 2月 消防署訓練塔完成し運用開始する。
4月 家具の転倒、落下防止を推進するために防災対策補助金制度を設ける。
10月 藤島団地地区及び篠岡大山地区に緊急避難対策用の放送設備を設置する。
11月 携帯電話からの119番受信システムを「分散受信方式」から「直接受信方式」に変更する。

- 平成18年 1月 地震対策として、篠岡中学校内に飲料水兼用の耐震性貯水槽（100m³）を設置する。
- 2月 本署の水槽付消防ポンプ自動車を災害対応型に更新する。
第58回日本消防協会定例表彰で小牧市婦人消防クラブ会長が優良婦人消防隊員表彰を受賞する。
- 12月 徒歩帰宅支援マップを作成し、災害発生時に活用できるようコンビニエンスストア、ガソリンスタンドへ配布する。
- 平成19年 1月 (株)ホウトク工場火災 焼損面積7,000m² 被害額6億8千万円
- 3月 日本特殊陶業(株)から起震車（地震体験車）「震ちゃん」の寄贈を受ける。
家具の転倒、落下防止を推進するための防災対策補助金制度を終了する。
- 9月 本署のはしご自動車（35m）を先端屈折式はしご自動車（35m）に更新する。
- 10月 地震対策として、小牧市スポーツ公園（パークアリーナ小牧）第2駐車場に耐震性貯水槽（100m³）を設置する。
- 平成20年 3月 日本消防協会から指揮広報車の寄贈を受ける。
自治体消防60周年記念式典に参加（日本武道館）する。
- 4月 消費生活協同組合法の改正により、小牧市市民火災共済制度を廃止する。
- 11月 本署の水槽車（10t）を更新する。
- 平成21年 1月 南支署の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
- 2月 東支署の高規格救急車を更新する。
- 9月 北支署の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
- 平成22年 3月 本署の指揮車を更新する。
- 平成23年 2月 本署の化学消防車（Ⅱ型）を更新する。
北支署の高規格救急自動車を更新する。
- 3月 東日本大震災に緊急消防援助隊として出動する。4月24日までの間に出動した愛知県隊16次隊までに対して、延べ87名の消防職員を派遣する。
- 5月 東支署のはしご自動車（40m）を更新する。
- 11月 小牧市ほか3市2一部事務組合の消防指令センターの設置に関する協定書を締結する。
- 平成24年 4月 市の行政組織が改正され消防本部防災課が廃止、市長公室危機管理課が新設され、消防職員3名が出向する。
- 8月 本部の広報車を更新する。
- 10月 東支署庁舎改修工事（10月～3月）
- 12月 南支署の高規格救急自動車を更新する。
- 平成25年 2月 本署の広報車を更新する。

平成24年度の主な行事

平成24年

- 4月 7日 消防団訓練会・消防団員健康診断（小牧中学校）
- 13日 愛知県消防長会総会（尾張旭市）
- 20日 全国消防長会東海支部総会（岐阜県岐阜市）
- 22日 消防観閲式（小牧中学校）
- 5月 13日 自主防災会連絡協議会・婦人消防クラブ連絡協議会総会（勤労センター）
- 20日 水防訓練（本庄地内 大山川城見橋上流）
- 25日 危険物安全協会定期総会（勤労センター）
- 30日 防火協会定期総会（勤労センター）
- 6月 3日 危険物安全週間（6月3日～6月9日）
- 20日 全国消防長会総会（北海道札幌市）（20日～21日）
- 21日 危険物保安研修会（小牧市公民館）
- 7月 3日 消防団操法激励会（小牧中学校）
- 21日 第57回愛知県消防操法大会（半田市）
- 8月 5日 消防団厚生事業（三重県桑名市長島町）
- 19日 小牧市総合防災訓練（岩崎中学校）
- 30日 防災週間（8月30日～9月5日）
- 9月 9日 救急医療週間（9日～15日）
- 28日 危険物安全協会会員視察研修（愛知県東海市）
- 10月 16日 市内事業所消防用設備等取扱説明会（16日～19日）
- 19日 尾張地区消防長会議（犬山市）
- 23日 緊急消防援助隊愛知県隊合同訓練（名古屋市）
- 25日 県営名古屋空港消火救難総合訓練（県営名古屋空港）
甲種防火管理講習（新規）（勤労センター）（25日～26日）
- 11月 4日 消防本部・消防団合同訓練（消防本部）
婦人消防クラブ・少年消防クラブ防火広報（ピアーレ桃花台店・イオン小牧店）
- 8日 防火協会役員・危険物安全協会役員合同視察研修会（静岡県袋井市）
- 9日 秋季火災予防運動（9日～15日）
- 17日 消防フェア（17日～18日 市民会館）
- 12月 28日 特別点検・仕事納め式
- 29日 消防団年末夜警（29日～30日）

平成25年

- 1月 4日 仕事始め式
- 12日 消防出初式（市民会館）
- 20日 防災講演会（市民会館）
- 21日 職員教養（消防本部）

- 23日 愛知県警防技術交換会（名古屋市消防学校）
- 30日 尾張地区消防長会議（江南市）
- 2月 4日 尾張東部五市消防連絡協議会研修会（犬山市）
- 8日 甲種防火管理者講習会（再講習）（消防本部）
- 24日 婦人消防クラブ・少年消防クラブ防火広報（ラピオ・アピタ小牧店）
- 3月 1日 春季火災予防運動（3月1日～3月7日）

